

令和4年 4月13日

国立大学法人筑波大学

報道関係者 各位

健康診断を用いた大学生の包括的な過剰飲酒対策(SBIRT)の構築 ～アルコール低減外来等と連携したアルコール健康障害への早期アプローチを実施～

国立大学法人筑波大学(学長:永田恭介、以下「筑波大学」)は、この度、健幸ライフスタイル開発研究センター、保健管理センター、筑波大学附属病院による包括的な過剰飲酒対策の取り組みとして大学生の健康診断を用いたアルコール健康障害の早期発見、早期治療の仕組みを構築し、実証を開始します。

【背景】

日本で過剰な飲酒を行っている方は、厚生省の調査にて約1,000万人ほどと推定されており、アルコール依存症や各種がんをはじめ、肝疾患、膵臓疾患、高血圧や脂質異常症などの生活習慣病、認知症、うつ病、交通事故、怪我、不妊、流産などのリスクにもつながり、健康に大きな影響を与えています。このような背景を元に、国や都道府県はアルコール健康障害対策基本計画を策定し、アルコール健康障害の発生予防や進行抑制の対策を行っています。中でも、令和3年3月に厚生労働省が発表した第二期計画では、特に健康影響を受けやすい集団として若年者が挙げられており、少子高齢化社会の中、大学生を含む若年者の健康維持・増進が求められています。

【概要】

一般社団法人国立大学保健管理施設協議会が示した、令和元年10月に「大学における健康診断・健康関連情報の標準化についてのガイドライン」では、「大学生の間に初めて飲酒することも少なくなく、アルコール摂取に関わる問診と教育・啓発の有効性を検討することは重要であること」が述べられております。中でも、全死亡等を減少させるために、健康診断時に飲酒行動に対する問診(スクリーニング)を実施することや、過量飲酒該当者に対して、短時間の介入を行うことが推奨されました。一方で、スクリーニング後の介入については「各大学の体制などを考慮して実現可能な範囲の介入を行う」と記載されているなど、実施体制整備は各大学に任されているのが現状です。これらの事象を踏まえ、本学では、例年実施している学生の定期健康診断時にアルコール使用障害スクリーニングテストを用いた飲酒行動に対する問診を実施することとしました。

このようなアルコール低減外来等と連携したアルコール健康障害の早期発見、早期治療の仕組みは全国でも例がなく、先進的な取り組みとなります。

【実施方法】

令和4年度の学生定期健康診断にて、アルコール使用障害スクリーニングテストを用いた飲酒行動に対するWeb問診を実施し、診断結果により過量飲酒に該当した者に対し、健幸ライフスタイル開発研究センターの総合診療医や看護師等によるカウンセリングを紹介します。カウンセリングの結果、飲酒による問題が大きい場合や専門的治療が必要と判断される場合には、附属病院のアルコール低減外来での継続的な治療を実施します。

【SBIRTについて】

Screening, Brief Intervention, Referral to Treatmentの頭文字をとったもので、アルコール健康障害の早期発見、早期介入、切れ目のない治療・回復支援を実現するための仕組みの一つです。国の基本計画の中では、さらに自助グループ(Self-help groups)等を含めたSBIRTsの仕組みの構築を各地域において推進しています。

【実施体制】

■保健管理センター

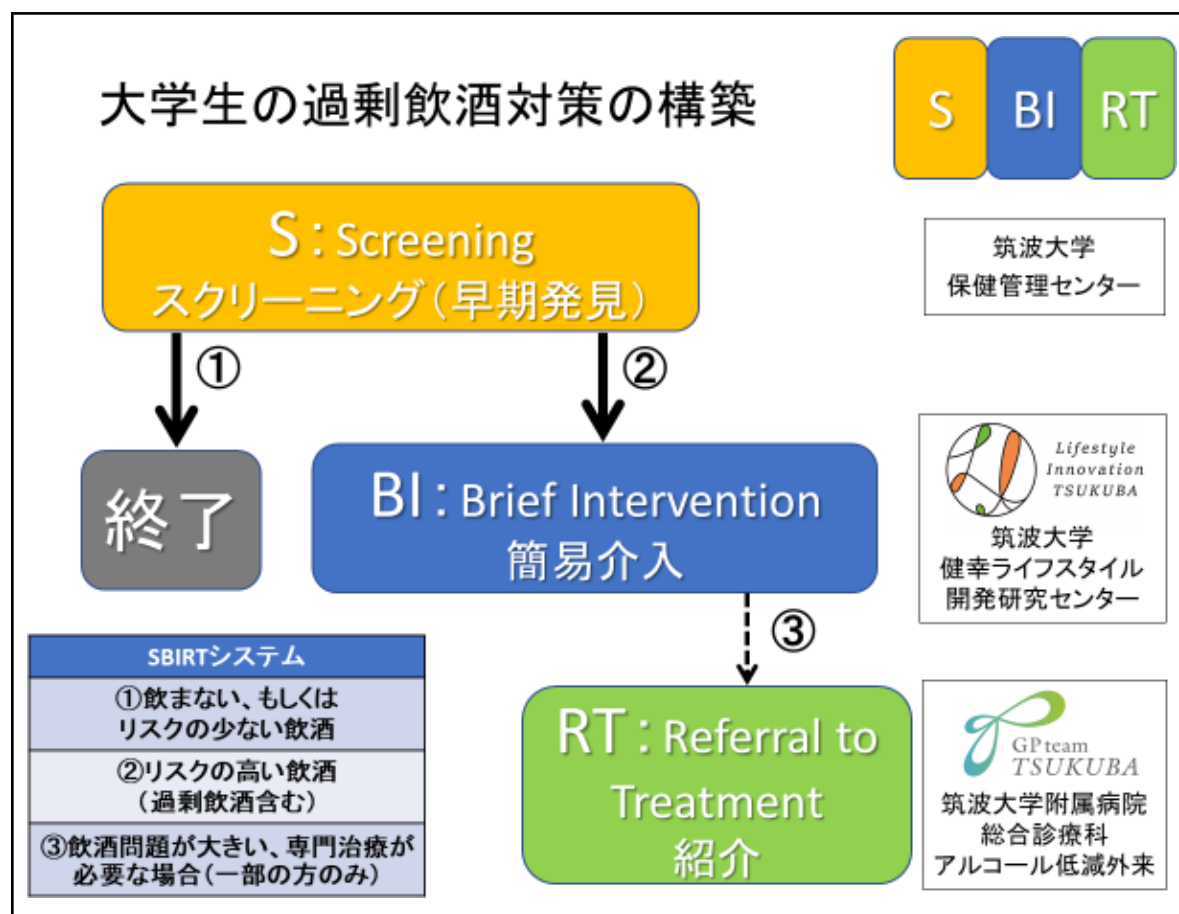
〔役割: アルコール使用障害スクリーニングテストを用いた飲酒行動に対する問診の実施〕

■健幸ライフスタイル開発研究センター

〔役割: 過量飲酒該当者に対するカウンセリングの実施〕

■附属病院

〔役割: アルコール低減外来による専門的治療〕



【本件に関する問い合わせ先】

◆健康診断における包括的な過剰飲酒対策に関すること

健康ライフスタイル開発研究センター センター長 吉本 尚(よしもとひさし)

TEL: 029-853-1019(内線81499) E-mail: rdc-lifestyle@md.tsukuba.ac.jp

◆取材・報道に関すること

筑波大学広報局報道担当

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp

健幸ライフスタイル開発研究センター

令和4年4月1日設置

近年、世界各国で、人口減少や少子高齢化・格差社会・グローバル化といった社会構造の変化や、地球規模課題である環境・エネルギー問題、新興・再興感染症の流行、健康志向の高まりや価値観の変化などが生じており、人々のライフスタイルはこれらの変化に対応することが求められています。国連のSDGsの目標の一つとして非感染性疾患（生活習慣病）対策や適正飲酒に関する内容が含まれており、より一層の**ライフスタイル変容**が求められている一方で、多様な価値観の中では、健康と幸福のバランス感覚も求められるようになってきています。



センター長
医学医療系
吉本 尚

本センターでは身体的持久力や脳疲労などの心身の健康に関する基礎研究や、健康障害・QOLと飲酒様式等に関する研究等を推進し、その研究結果を基盤として、健康で幸せなライフスタイルを構成する商品・サービスの開発支援、スポーツや地域コミュニティの活性化・新文化創出などを行っていきます。これらを通して科学的根拠に基づいた、より良いライフスタイルの創生を目指していきます。

より良いライフスタイルの創生 新しいお酒との付き合い方の創造

官公庁

政策提言 &
支援獲得

社会実装 &
ビジョン実現へ

ニーズ抽出 &
アライアンス創出

産業界

連携



連携

身体的持久力に関わる
メカニズム

酪酐様式と
ALDH2遺伝子多型の関与

脳疲労に関連する
因子の探索